

【日々の研修コラム～初任者研修の単元研究会にて～】

初任者研修対象者(今年度2名)は、1年間を通して4回の研究授業を実施し、本時の指導だけでなく、教科等の特質に応じた指導や単元構想の在り方、学習評価の仕方等を学ぶことができました。

12月中旬から下旬にかけて、最後の4回目となる研究授業(国語科、職業科)が行われ、最後の単元研究会が実施されました。



【複数による学習評価】

学びの記録やビデオから、具体的に示している評価規準に照らし合わせて、複数の視点で観点別学習状況の評価に取り組みました。参加者同士で、生徒の言動等について、どのように学んでいたかを議論し、具体的な姿から学習評価を語り合う様子が見られました。

また、単元構想の話し合いでは、単元全体の時数や他の教科との関連、指導時期など、より単元が充実する視点でのアイデアがたくさん出されました。



【初任者もついにファシリテーターに！】

最後の単元研究会を終え、初任者から、次のような一言がありました。

○「初任研というと、今までのイメージは、その当事者の先生方だけでやっているという感じだったのですが、本日もたくさんの先生方に来ていただき、先生方から教えていただいたことを、子どもたちに返していけるように、精進していきたいなと思っています。ありがとうございました。」

○「研究授業というのは、私も同じように、すごく考えて辛い思いをして授業をやる、というイメージがありました。相馬(支援学校)に来て、4回授業があり、考えるのは大変でしたが、4回ともすごく楽しく取り組むことができました。それも先生方に色々教えていただき、“こういうふうに授業をつくる”“こういう風にやっていると、生徒の成長や生徒の学びの姿を見ることができる”



いうことをたくさん教えてもらって、本当に、相馬支援学校が初任地でよかったなと思いました。これから、来年からは、戦力になれるように頑張っていきたいと思います。」

初任者の言葉で、私たちもさらに励んでいこうとする気持ちになりました！

今後も、“共に、支え合い・高め合う学校を目指して” 子どもたちも、教師も成長できるように地道に、楽しみながら、着実に取り組んでいきたいと思ひます。